

予算等特別委員会

令和5年度陸前高田市一般会計予算案を審査した予算等特別委員会（鶴浦昌也委員長、議長を除く全議員で構成）の質疑内容を一部紹介します。

歳入

○市税 固定資産税増加の要因は。

答 震災津波の浸水区域での減免が令和5年度から全額課税となること大きい。

質 市税収入の増加策は。

答 市内で生産したものを消費するといった地域経済の循環が重要となる。そのような取組や考え方を市民が共有して生産の向上と所得の向上を目指したい。

歳出

○移住支援

質 移住支援金拡充の内容は。

答 これまででは世帯で移住

した場合は100万円、単身では60万円をそれぞれ商品券で交付してきた。従来の住宅取得補助に加え、今後は18歳未満の家族を扶養していればさらに100万円分の商品券を交付する。

○ILC誘致

質 東北ILC事業推進の状況は。

答 昨年から国内での動きが見られ始め、国からの予算が倍増になるなど流れが良くなっている。本市としても広域連携して誘致運動を展開していく。市内での機運醸成を図るよう進めたい。

○防災情報

質 オートコールによる防災情報システムとは。

答 電話を使った新しい情

報発信方法のひとつ。事前に電話番号を登録すると、避難情報などが出た場合に電話がかかってきて避難情報などが流れるシステム。

防災無線が聞こえなかったり、携帯電話を持っていない人にも確実に情報が伝わる。その後の質問に答えることで安否確認や居場所の特定にもつながる。令和5年度からの運用を考えているが、全国初の取組となる。

○被災者見守り

質 被災者見守り・交流支援事業の継続は。

答 中田と下和野の災害公営住宅での交流プラザは、令和7年度まで継続する。国からの支援が無くなることから、自主的な運営になるよう関係者と協議を進める。

○補聴器購入補助

質 補聴器購入補助は。

答 耳鼻咽喉科の専門医からの診断を受けることが必要。医師の検査結果を基に補聴器業者が作ることになる。対象は本市在住の65歳以上の人。この4月からの適用となる。

○学童クラブ

質 学童クラブの統合への動きはどうか。

答 現在、市内に8カ所の学童クラブが存在している。この3月には新たな法人を設立し、7クラブが統合する予定で、1クラブは従来通りの運営となる。

○子育て支援

質 子育て支援員の研修事業はどうか。

答 これまで5カ年研修事業を実施し、受講者は80人となっている。毎年1〜2人の就労実績がある。本市では保育士の人材不足もあり就労を促している。

質 子育て支援センターの土日開催は。

答 高田保育所に隣接している子育て支援センターたかたを土日も開設し、乳幼児の土日の遊び場を確保する。保



学童クラブ（高田町）

育士・教職免許を所持する担当者雇用し、子育て家族の要望に応える。より広い場所を望む声に応え、レインポーハウス（高田町）においても月に数回の開設を検討している。どちらも事前予約は不要で、随時活用できるようにする。

○職業訓練促進

質 母子家庭等自立支援給付金事業の高等職業訓練促進給付は。

答 看護師資格だけでなく、国家資格取得の場合は通信教育でも支給できるように要件を改定した。調理師や、他の資格であっても利用でき、ホームページなどで周知を図る。

○市営住宅駐車場

質 市営住宅駐車場の使用料は。

答 令和4年度は駐車場一区画月額2500円で、2台の縦列駐車は月額4000円だった。令和5年度は、前者1300円、後者2000円となる。

○ふるさと納税

質 ふるさと納税の見直し

は。

答 令和5年度は10億円の寄付を目指す。納税者への返礼品として上位を占めるのは海産物。地場産業の育成につなげていきたい。

○財政調整基金

質 財政調整基金増額の要因は。

答 震災後の復興需要により市税収入の落ち込みが少なかったことや歳出削減の取組を継続したことが影響した。また、被災した公共施設を整備してきた期間は、維持管理費がかからなかったことなどによるものと考えている。

○浄化槽設置

質 浄化槽設置推進事業の補助拡充は。

答 新築分の浄化槽に対しては従来通り。国・県の補助制度の拡充により、汲み取り槽から浄化槽にリフォームした際は、汲取り槽の撤去分まで9万円、宅内配管分として30万円を加算する。

○畜産業

質 市内畜産業の現状と経営状況はどうか。

答 肉牛飼育農家は7戸、乳牛は2戸、ブロイラー4戸となっている。飼料などが高騰し厳しい経営となっている。県からの支援策が予定されているが、本市も検討していく。

○笹ノ田トンネル

質 新たな笹ノ田トンネルの整備促進に向けた見直しはどうか。

答 県は学識者や専門家の検討会議を開く予定とのこと。本市では新笹ノ田トンネル期成同盟会と共に連携して進める。今後、整備促進大会を開催するほか、国會議員への働きかけや関係機関への要望を展開していく。

○消防

質 常備消防や救急救命士、女性消防士の募集と配置については見直しは。

答 救急救命士は25人の有資格者がおり、実働17人で対応している。女性消防士は募集しているものの応募が無い。県内他市において配置が進んでおり、本市でも配置が望まれる。



国道 343 号の笹ノ田トンネル

要と感じられる。

○小学校

質 高田小学校や気仙小学校のグラウンドからの砂塵問題は。

答 高田小には防塵ネットを設置したが、風の強さによって効果がない。両校のグラウンド表面に保湿性のある土質安定剤を撒き、砂塵の飛散防止を図る。